

種なし ピーマン タネなっぴー

栽培マニュアル



ウエキ
交配

タネなっピー

(品種名:タネーラ)



特許第 5272071

■タネなしピーマンの仕組み

本来、ピーマンの花は両性花（雄しべ・雌しべを持つ花）だが、タネなしピーマンの雄しべには花粉がなく受粉しなくても実をつける「単為結果」という性質を持たせることで、タネのないピーマンができる

■特性

半促成栽培～夏秋栽培が比較的安定して栽培できる

葉が大きく樹勢が旺盛

茎は太く節間が伸びやすい

果実はシワが少なく、なで肩の果形

果肉は肉厚で多汁質、苦味が少なく食べやすい

出荷用シール
もあります



出荷用シール 65×45mm

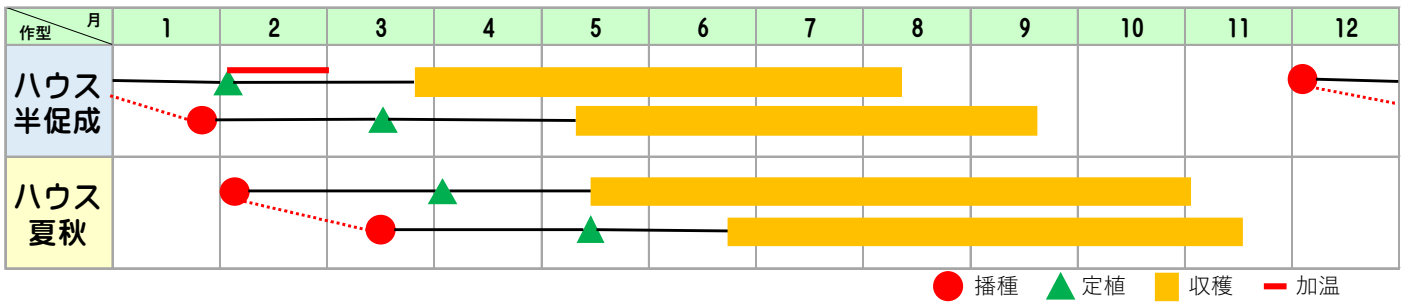


横浜植木株式会社

〒232-8587 横浜市南区唐沢 15 番地
TEL045-262-7400 FAX045-261-7495

作型表

暖地・中間地標準



- * 露地栽培では種有ピーマン・トウガラシ類の花粉が飛来し種が入る可能性があるためハウス栽培を推奨
- * 花粉の出る種有ピーマン・トウガラシ類との混植は避ける

播種準備

- ・ 128 穴または 200 穴セルトレイの各セルに 1 粒ずつ播種
- ・ 播種 20 日後に 9cm~12cm ポットに鉢上げする
- ・ 発芽適温 25~30°C、育苗温度 23~30°C

圃場準備

◆土づくりの目安◆

- ・ 完熟した堆肥を 2~3 kg / 1 m²程度むらなく施用する
- ・ 初期の樹勢をおさえるために、元肥は一般的な種有ピーマンよりも少なめにする
⇒ 追肥主体の管理を推奨
- ・ 窒素成分はピーマンの半分~3/4 程度とし、有機質等を含んだ肥効の緩やかな肥料を用いると良い
(リン酸、加里は窒素成分の等量程度~通常ピーマン施肥基準のやや少なめ程度を施肥する)
- ・ なるべく深く起こし、畝をたてる
- ・ 水はけを良くし、排水の悪い畑は高畝 (15~20cm) や、暗渠や明渠など行い排水改善に努める

* 定植前に土壌診断を行い、圃場に合わせた肥培管理を検討する

◆畝作り◆

- ・ 畝は、幅 70cm 以上、高さ 10cm 程度にする
- ・ マルチを張る (マルチは水分保持・土壌保温・雑草防止・泥はね防止等の効果有)
- ・ 株間は 50~60cm に設定
- ・ 誘引用番線は畝に対し平行に 2 本張り、
番線の幅は 80~120cm 程度広めに確保し
整枝・誘引作業に余裕をもたせる



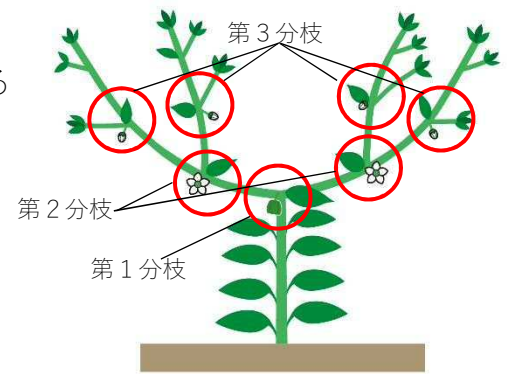
圃場イメージ

定植～初期管理

- ・ 定植前の地温確保と定植後の保温管理が重要
- ・ **定植時の地温は 18℃程度あると良い**
地温不足は活着不良の原因となる。
⇒定植一週間前目安にマルチを張り地温の確保に努める
- ・ 生育適温：日中 23～30℃ 夜間 18℃前後
- ・ 第1分枝の花が開花した頃が定植適期
- ・ 若苗定植は樹勢が強くなり、着果不良等の要因になるため避ける
- ・ 定植は晴天日の午前中がベスト。定植時の低温、深植えに注意
- ・ 定植後は苗が折れないよう支柱を立てる
- ・ 樹勢が旺盛なため、生育初期に樹勢を抑える管理が必要
- ・ 第1～第3分枝の果実は すぐに摘果せずに収穫のタイミングを遅らせることで着果癖をつける



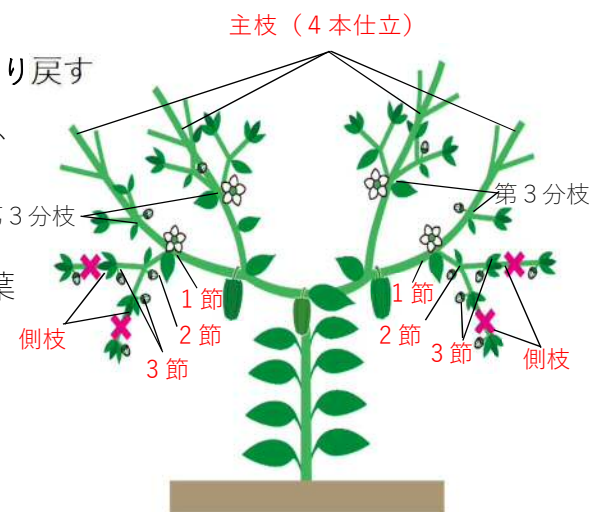
第1分枝の花が開花した頃が定植適期



第1から第3分枝の果実はすぐに摘果しない

整枝・誘引作業

- ・ **主枝 4本仕立て**
- ・ 第1分枝までのわき芽は取り除き第2分枝に発生した4本を紐やネットに誘引し、主枝とする
- ・ 初期の誘引は、第1分枝が開くように誘引する
- ・ 紐誘引の場合は、緩めにU字型、ネット誘引の場合は極力広げ誘引する
- ・ 側枝は3～4節で摘芯し、収穫の終わった枝は1節目まで切り戻す
- ・ 下部の無効枝や徒長枝が過繁茂になると風通しが悪くなり、灰色かび病、うどんこ病などの病害の発生が多くなるので早めに間引きし通気性を良くする
- ・ 第3～4分枝の果実を収穫する頃に第1分枝以下の葉を摘葉
- ・ 上部が過繁茂になると、光が入らず果色が薄くなるので、目の高さで主枝の摘芯を行い、摘芯位置から3～4節下の側枝を主枝として誘引する
- ・ 特に後半、細枝が増えるため、こまめに摘芯し
果実は主枝あるいは太い側枝に着果させるよう心掛ける



側枝は3～4節で摘芯し収穫の終わった枝は1節目まで切り戻す

灌水管理

定植時に灌水チューブ・ドリップチューブを株元に設置する

- ・定植後 1～2 週間は草勢に応じて数日に 1 回程度に株元に灌水する
- ・定植後 2 週以降は、灌水チューブでの灌水に切り替える
- ・活着後の灌水は朝方の涼しい時間に行う
- ・高温期などは、蒸散量も激しく消耗するので
1～2 日毎に**一株当たり 1～2L** を目安に灌水する

遮光

遮光期間：梅雨明け～8 月

時間：日中 10～3 時

遮光：30～40%程度の遮光

- ・強すぎる遮光は、徒長、花落ちなどの原因となるため避ける
萎れや尻腐れ果、日焼け果などの発生が見られない場合は極力光をあてるようにする
- ・雨、曇天続きから晴など急激な天候の変化の際は普段より遮光時間を長くするなどして、
葉焼け、日焼け果の発生を防ぐ

追肥管理

- ・第 3 分枝以降の果実が膨らんできたら、2～4 週おきに追肥を行う
初期は窒素成分を少なめに、リン酸、加里中心に施すと良い
- ・その後十分着果していれば定植 2 か月前後を目安に窒素、リン酸、加里等量程度に変更する
- ・草勢が強く花落ち、落果が目立つ場合、窒素成分は控える

収穫

収穫日数は3~4月で開花から30日以上、5月中旬以降は開花から20~25日
1果重30~40gが目安

収穫初期は果実サイズが大きくなる傾向あり



実物大

30~40g / 1果が収穫目安

とり遅れた果実は茶色⇒赤色へと変色し完熟する

果実温度が高くない午前中に収穫する

日中、午後高温時の収穫は直射日光を避け速やかに冷暗所で保管する



*タネなっぴーは一旦茶色く変色した後に真っ赤に完熟する性質があります

memo